

全国学力・学習状況調査の結果と今後の指導について

国語

1 国語A 主として「知識」に関する問題の結果

(1) 領域毎の結果

領域毎の平均正答率では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は全国平均を上回った。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国平均を下回った。

(2) 全国平均正答率を上回った設問例

- ・目的地までの行き方を正しく説明している文章を選ぶ。【話すこと・聞くこと：3・4年】

(3) 全国平均正答率を下回った設問例

- ・漢字を書く。(せい造, せつ極的) 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項：5・6年】

2 国語B 主として「活用」に関する問題の結果

(1) 領域毎の結果

領域毎の平均正答率では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は全国平均を下回った。

(2) 全国平均正答率を上回った設問例

- ・「紹介する文章」を基に「おすすめする文章」を書く際の工夫として適切なものを選ぶ。

【書くこと：5・6年】

(3) 全国平均正答率を下回った設問例

- ・内容の中心となる部分を明確にして、詳しく文章を書く。【書くこと：5・6年】
- ・伝記の一節を読み、最も心ひかれた一文とその理由を指定された形式に当てはめて書く。

【書くこと・読むこと：5・6年】

3 今後の指導について

(1) 漢字を習得する。

学習した漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習することのみならず、漢字のもつ意味を考
えながら、文や文章の中で正しく使うことができるようにしていく。

また、漢字ドリルから定期的にテスト形式で問題を出題して定着を確認したり、熟語や慣用句などの
語彙習得と合わせて指導したりして、ドリル学習の効果が発揮されるように留意して指導していく。

(2) 条件作文の経験を積み、中心となる言葉を生かした文章構成ができるようにする。

キーワードを選択したり必ず使用する語彙を限定したりして、適切にその言葉を位置付けながら文章を構成する活動が考えられる。中心となる内容を明確にして書き、それが読み手に伝わるかどうかを授業の中で仲間と交流するなどして、文章構成の力が付いた実感を味わわせたい。

算数

1 算数A 主として「知識」に関する問題の結果

(1) 領域毎の結果

領域毎の平均正答率では、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」は全国平均を下回った。

(2) 全国の平均正答率を上回った設問例

- ・562 よりも大きくなるように $5\square3$ の空欄にあてはまる数字を書く。【数と計算：2年】
- ・ 8m^2 に16人の場合と 5m^2 に9人の場合では、どちらが混んでいるか計算で求める。

【量と測定：5年】

(3) 全国の平均正答率を下回った設問例

- ・0.4mの重さが60gの針金の0.1mあたりの重さを求める。【数と計算：4年】【数量関係：5年】
- ・200人中の80人が小学生の時、小学生の占める割合を求める。【数量関係：5年】

2 算数B 主として「活用」に関する問題の結果

(1) 領域毎の結果

領域毎の平均正答率では、「図形」は全国平均とほぼ同等だった。「数と計算」「量と測定」「数量関係」は全国平均を下回った。

(2) 全国の平均正答率を上回った設問例

- ・九九の表の横に並んでいる数の法則性について、示された表現方法を用いて説明する。

【数と計算：2・4年】

(3) 全国の平均正答率を下回った設問例

- ・九九の表の横に並んでいる数の和を、示された考え方に即して式に表す。【数と計算：2・4年】
- ・1枚の折り紙からできる5個の輪飾りを30個集めて1本と数えるといった異なる数量関係を関連付けて、式や言葉で説明する。【数と計算：2・3・4年】【数量関係：2年】

3 今後の指導について

(1) 除法の問題において立式から計算までを確実にできるようにする。

計算の意味を理解するために、数直線図などを用いて立式の根拠を説明する活動が考えられる。また、除法の「被除数」と「除数」の意味、1にあたる大きさを求める問題場面において除数が1より小さくても除法を用いることができる、などの除法で表現できる数量関係の理解を進めることも大切にしていく。

(2) 問題の条件設定から数量関係を把握して、言葉を式に表すことができるようにする。

問題の文章を正確に読解できること、その文章と数とのつながりを理解できることを大切にして、授業では導入(はじめに問題に出会う時)において具体的に操作したり視覚的に捉えやすくしたりするといった工夫をしていく。家庭学習では、ドリル学習のやり方を工夫して技能の定着を図り、また、ドリル学習以外にプリントを配布するなどして、文章題にも数多く取り組ませる。

(3) 問題場面における複数の数量関係を読み取り、関連付けて考え、適切に表現したり判断したりすることができるようにする。

日常生活の中で物の数や長さなどを実測し、ぴったり収納したり管理したりする方法を考察する活動が考えられる。問題の文章から問題場面を正確に把握すること、判断の理由を明確にすることを日頃の授業でも大切にしていく。また、授業終末では、本時できたことや今後役立てたいことなどを振り返りとして記入し、日常生活につなぐ意識をもたせる。

理科

1 問題の結果

(1) 領域毎の結果

領域毎の平均正答率では、「物質」「エネルギー」「生命」「地球」は全国平均を下回った。

(2) 全国の平均正答率を上回った設問例

- ・食塩を水に溶かした時の全体の重さを求める。【物質：5年】

(3) 全国の平均正答率を下回った設問例

- ・流れる水の土や石を積もらせる働きを何と言うか答える。【地球：5年】
- ・ろ過の適切な操作方法を説明する。【物質：5年】

2 今後の指導について

(1) 家庭学習を充実させ、理科的な用語の意味を理解する。

各学年の発達段階に応じて、自主学習などにおける理科の学習のあり方を指導する。また、単元テストに合わせて学習内容、特に用語の意味理解を確認することを指導していく。

(2) 実験の意図や条件設定などを理解した上で、主体的に実験活動に取り組めるようにする。

なぜこの実験をするのか、なぜ実験の条件をそのように設定しているのかを授業の中で対話的に取り上げ、実験を行う前にその実験の意図を説明する活動を通して、教師の指示に従うだけでなく考えをもてるように指導することを大切にしていく。

参考文献：平成30年度全国学力・学習状況調査報告書 文部科学省国立政策研究所〈国語・算数・理科〉

子どもの学習習慣 及び 基本的な生活習慣について

（1）全国の数値を上回った設問例

- ・学校のきまりを守っていますか。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- ・授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。
- ・授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。
- ・平日、学校の授業以外に、1時間以上の勉強をしますか。
- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか。
- ・地域社会などでボランティアに参加したことがありますか。

（2）全国の数値と同等もしくは下回った設問例

- ・自分には、よいところがあると思いますか。
- ・将来の夢や目標を持っていますか。
- ・家で学校の予習・復習をしていますか。
- ・家の人と学校での出来事について話しますか。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

（3）結果の概要

学校のきまりを大切にし、授業では、自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表し、自ら主体的に取り組もうとしていることがわかった。また、地域でも積極的に活動に参画する意欲を感じる。しかし、自分自身のこと（よさや夢、目標に関わること）や、仲間との関わり合いを通して、考えを深めたりまとめたりすることに弱さがあることがわかった。

また、次の設問において、全国の数値を上回っていた。

- ・放課後は、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりする。
- また、次の設問において、全国の数値を下回っていた。
- ・週末は、家族と過ごしたり、友達と遊んだりしている。

（4）分析・今後に向けて

学校・学級の約束や、一日の大半をしめる授業に向かう姿勢が大切にされている。中央小3本柱「挨拶・授業・掃除」を高めようと児童会を中心とした取組の成果が表れている。今後は、学校の教育活動全体において、目標を持って取り組むよさを味わわせ、より一層自己肯定感を育めるようにしていく。家庭学習についても、保護者と連携していくことが大切であると感じている。